

国立大学法人

News Letter Vol.3 2006.5.01

東京農工大学 ニュースレター

春号

巻頭特集 対談 / さらに魅力ある農工大を創るために

●ブランディングプロジェクト「UP農工大」●研究最前線●学生発 こんな授業・こんなゼミ

地球をまわそう。農工大



さらさらに魅力ある 農工大を創るために

「MORE SENSE―使命志向型教育研究―美しい地球持続のための全学的努力として―」このスローガンのもと、大学改革のリーダーシップを発揮する小畑秀文学長と、企業経営・学校経営の双方にキャリアを有する古賀正一 本学経営協議会委員に、本学の魅力と今後の大学改革の方向性について語り合っていました。

まず、 学内の意識改革を！

古賀 最近の東京農工大学は次々と未来に向けた力強いメッセージを発してきました。農工連携を推進する共生科学技術研究院の設置、技術経営研究科専門職大学院開設、伝統的に強い産学連携の二層の推進、「21世紀COE」に選定された2研究プロジェクトに代表される先端研究活動などです。今日は、これからの東京農工大学をさらに魅力的な大学としていくための取り組みについて、お話をうかがいたいと思います。

小畑 今や大学も改革なしには生き残ることができない時代です。本学では、まず平成16年度の国立大学法人化と同時に大学院重点化を図り、研究センターとしての基盤整備を行いました。国立大学法人を囲む環境は大変厳しく、本学を含めた各大学が、厳しい競争の中で将来の発展に向けた様々な改革努力を行っています。この競争の中で改革への取り組みを怠ってしまつと衰退の道をたどることになるでしょう。学長就任後、私が最初に考えたのはすべての大学構成員の方々に、改革意欲や危機意識を共有

していただくことでした。「まず自分自身から変えないと、近い将来、本学は他大学の後塵を拝することになる」……そうした意識が、今では全学的に浸透してきたように思います。

古賀 それはとても重要なことで、企業に限らず改革には制度・組織改革、事業改革、意識改革の3本柱が必要です。中でも働く人々の意識改革は最も重要です。意識改革は、実際に危機に瀕してからでは遅く、組織として勢いのある時にやるべきことでもあります。小畑学長がまず意識改革から始められたことを、私は強く支持したいと思います。

”オンリーワンの” 大学へ

小畑 本学の改革には、5年先ではなく、少なくとも10年先を見通した中期的な展望が必要だと私は思います。そうした考えのもと、やはり学長就任直後に、本学の強固な基盤づくりを進めるべく、大学改革ワーキンググループ(WG)を組織しました。これは研究・教育・大学運営などに関して、若手教員による真剣な議論が交わられました。メンバーは本学の改革を自分たちの問題として、前

向きに捉えていただいている方々ばかりで、まさに議論百出でした。その結果、昨年12月にWGから基本的な方向性を示す中間答申が示され、そこには10年後の本学を見据えた優れたアイデアが多く提案されています。今後、全学的な議論を経て、今年中に具体的な実行案をまとめる予定ですが、

ただし、その前に実行できる、あるいは実行すべきプランがあれば、できるだけスピーディーに実現させていくつもりです。

古賀 産業界では、すでに90年代より各企業がグローバル化の波の中で、各社が改革に邁進してきました。率直に申し上げて、大学は改革の面では遅れを取っています。改革のスピード感は大切ですね。もちろん企業活動と教育研究活動の違いはありますが、大学といえども、グローバル化の波を避けることはできません。研究活動はもちろん、ドメスティックなものと思われがちな教育の分野でさえ、すでに国際競争にさらされています。

小畑 そうした厳しい競争社会の中で、私たちが目指すのは”オンリーワンの”大学です。本学は、農・工それぞれ多くの研究分野できわめて高い評価を獲得してきました。そうした優れた部分をさらに伸ばしていくとともに、将来的に成長が見込まれる研究分野にも積極的にアプローチしていきたいと思っています。

古賀 企業経営で言うコアコンピタンス(中核となる強み、特色)の問題ですね。私は、人づくりや社会貢献などの面で、今後、大学の拠点化の推進が、日本再生の重要な方策の一つになると思っ



小畑 秀文 Kobatake Hidefumi

- 東京農工大学長(平成17年5月～)
- 工学博士

ています。その点、工学と農学というこれからの時代もっとも有望な実学分野、たとえばバイオサイエンスや農工/医工連携などの分野で、東京農工大学には国内の拠点となりうる大きな優位性があります。小畑学長は、そうした本学の伝統的な強さを踏まえながら、大学改革を進められていると感じています。

小畑 伝統的な強さといえば、本学の場合、産学連携も欠かせません。企業の共同研究先として、国内大学ではトップクラスの評価を得ており、本学よりはるかに規模が大きな総合大学に負けない実力を有しています。昨年、文部科学省の「スーパー産学官連携本部」に選定された6大学の一角を本学が担うことになったのも、そうした実力の証しといえるでしょう。こうした強みは、今後も積極的に活かしていきます。

教育力の向上のために

古賀 研究と対置される教育＝人づくりの面での改革はいかがですか。

小畑 もちろん重要課題です。大学の研究活動は、教員ばかりでなく、各研究室に所属する大学院生によって担われており、優れた学生の存在が、先端研究推進の大きなパワーになっています。良い教育を行っているという定評を得ると、その

大学には優秀な学生が集まってくるから、研究力をさらに高めるためにも、教育の充実が必要不可欠なのです。本学では、両学部の教員が所属する共生科学技術研究院によって農工連携を推進するとともに、各学科に応じた最適な教育を学生に提供するための組織として大学教育センターを設置しています。平成22年度には、この組織を核として、教育システムの抜本的な大改革を行う予定です。この改革の目的は、本学の卒業生が、企業・社会から各分野の専門家として高く評価される実力を身につけてもらうこと

にあります。そのため、各学科における専門教育の充実はもちろん、たとえはあらゆる分野で重視される英語能力に関しては、全学部・学科の学生にTOEFL試験を義務付けようと考えています。教育システムの改革に関しては、つねに顧客＝学生志向で考えていますので、きっと学生諸君には満足してもらえ改革になるかと思えます。

古賀 学生の満足度を高める教育システムとしては、すでに学生による授業評価も導入されていますね。

小畑 ええ、今後は授業評価を教員の人事評価にも反映させ、授業のクオリティ向上に対する一層の奮起を促していきます。学内の教育にも競争原理を導入するわけです。

古賀 教育の質を図る基準としての授業評価は、授業改革や教育の進歩のもとです。よく競争社会の弊害を指摘される方がいますが、しかし競争と評価がないところに決して進歩はありません。そして進歩がなければ、大学としての卓越性を保つことは難しいでしょう。質の高い教育を実現し、優秀な学生を社会に送り出せば、それだけ大学としての信頼性は高まります。

小畑 いわば、大学による学生の品質保証ですね。もちろんそれぞれ個性を持つ若者ですから、工業製品のような画一的な品質保証はできませんし、するつもりもありません。しかし、先ほど

触れたTOEFL試験のように、ある程度客観的な基準を二つの指標とする方法はあるかと思えます。

「UP農工大」進行中

小畑 ところで教育・研究、大学の組織運営の改革とともに、私は大学の知名度アップの必要性を強く認識しています。というのも共同研究のパートナーとして、産業界ではトップクラスの評価を受けているにもかかわらず、受験界の本学に対する評価は果たしてそれに見合うものなのか(笑)、少々疑問なのです。そこで現在進行中なのが、「UP農工大」というユニバーシティ・アイデンティティのためのプロジェクトです。新しいブランドマーク制定、公募による大学キャッチフレーズ、大学のテーマソング……受験生や社会一般からの認知度を高めるための様々なブランディング戦略を進めています。

古賀 大学にとって教育・研究の中身がもつとも大切なのは言うまでもありませんが、この情報社会ではその中身をわかりやすいメッセージとして伝えるためのブランディングも同じくらい重要です。たとえ同じことをやっても、より多くより分かり易く情報公開されたものが魅力的に



古賀 正一 Koga Masakazu

- 東京農工大学経営協議会委員
- (株)東芝顧問
- 学校法人市川学園理事長

伝わりますから……：良
いもの、優れたものは積極的にPRしていかなければいけません。受験生、在学学生、父母の方々、卒業生、企業、地域住民など、大学にとって大切なステークホルダー(利害関係者)毎に、きめ細かくメッセージを発信していく……：そんな多方面における重層的な大



学広報の強化を図っていくべきでしょうね。

小畑 おっしゃるとおりです。そうした広報活動の一端として、私自身は学長就任以来、定期的な記者会見を開催して、本学の最新研究成果の広報に務めてきました。もちろん本学ウェブサイトに各種印刷物でも、本学の教育・研究、社会貢献、国際交流などに関するさまざまな情報を提供していますし、昨年度創刊したこの「東京農工大学ニュースレター」も、学生の父母の皆さまに対する情報提供の一端です。

古賀 父母の皆さまにも、本学の教育・研究や社会貢献等に対し、これまで以上に関心を持っていただきたいですね。

小畑 ええ、父母の方々の視線は、私たちにとって貴重な社会の視線でもあります。本学に対するご意見や大学への注文などがありましたら、ご遠慮なくお寄せください。「自分の子どもを農工大で学ばせて本当に良かった」——私たちが皆さまが、そんなふうに心から思っていただける大学を目指していきたいと考えています。

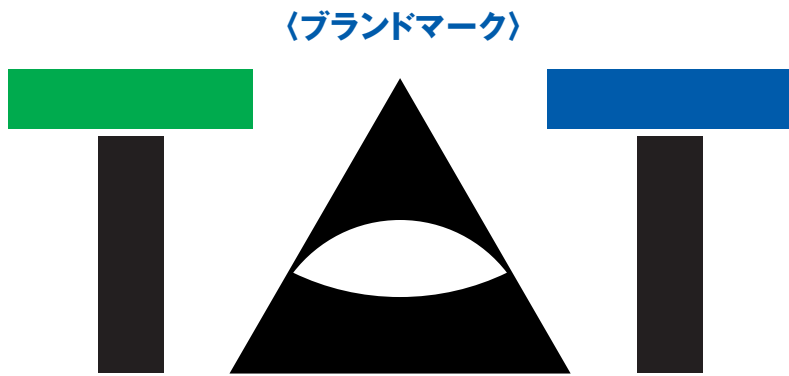
新しいブランドマークで 農工大の基本理念をアピール。

東京農工大学は、MORE SENSE(使命感志向型教育研究―美しい地球持続のための全学的努力)を基本理念に掲げ、循環型社会の実現に取り組んでいる大学です。国立大学法人としてこれまでの実績・評価をさらに高め、大学のイメージを広く社会に発信して行くために、平成17年10月からブランディングプロジェクト「UP農工大」を始動し、このたび、新しいブランドマーク、ブランドステートメント等を制作発表しました。

3月24日に制作発表会が行われ、本学の新しいイメージを学内外に広くアピールしました。新しいブランドマークが、本学を表現するのにふさわしいシンボルとして、多くの方に長く愛用されて行くことを願っています。

ブランドマーク

東京農工大学の英語表記「Tokyo University of Agriculture and Technology」を基に、本学の理念とする「循環型社会の実現」をシンボリ化したもので、農学部(Agriculture)と工学部(Technology)をグリーンとブルーの横軸で表し、中央に循環の輪を配した大変親しみやすいマークとなっています。制作は、朝日広告賞グランプリを始め、世界的な賞を多く受賞された著名なアートディレクターである戸田正寿氏によるもので、新マークは、封筒、名刺、レターヘッド等の各種アイテムに広く活用して行きます。



〈ブランドマーク〉

ブランドステートメント

ブランドステートメントは、卒業生、在学生、教職員から募集し、約650件の応募があった中から最優秀作品(学長賞)1点、優秀作品(副学長賞)3点を選び、最優秀作品を補作して決定しました。補作は、日本を代表するコピーライター

〈ブランドステートメント〉

「地球をまわそう。MORE SENSE! 農工大」

プロフィール **眞木準氏**(本学客員教授) 日本を代表するコピーライター 主な仕事として、「でっかいどお。北海道」 全日空、「和イスキー。膳」サントリー、「踊れるバーバー。」三陽商会、「うつくしま、ふくしま」福島県PRキャンペーン・スローガン、「アエラ」朝日新聞Weeklyネーミング など

戸田正寿氏 世界的にも著名なアートディレクター 主な仕事として、サントリーペンギンズバー、「アエラ」表紙、バーバーブルーレーベル など

PHOTO NEWS 2005

10月
生協の白石さんとブログで紹介した工学部学生に学長から感謝状



10月
スーパー産学官連携本部設置を記念してシンポジウムを開催



8月
府中市との協同事業で馬の教室を開催、馬術部員が小学生を指導



5月
現役学生ガイドでキャンパスツアーを開始、5月から12月まで約400名が参加

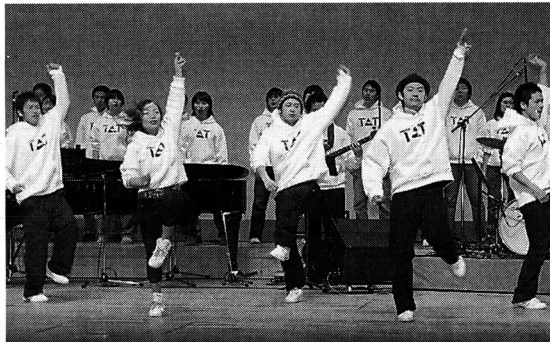


4月
入学式で校歌斉唱



農工大に新ブランド

「生協の白石さん」に続け



新たなブランドで大学の魅力と知名度を高めようと、東京農工大学（府中、小金井両市）がマークなどを作り24日、府中市内で発表会を開いた。同大では初の試み。コピーライターで同大客員教授の眞木進氏もプロジェクトに参加した。「生協の白石さん」が一躍有名になった同大。今度は大学として地域や若者の心をつかみたい考えだ。

知名度UPにマーク

作ったのは、基本理念である「循環型社会の実現」をイメージしたブランドマークやステートメントなど。昨年10月から、眞木氏を中心メンバーとした「UP農工大」プロジェクトが設けられ、検討が重ねられたという。

ブランドマークは、同大の英語表記から「TAT」の文字を選び、デザインしたもの。著名なアーティストの戸田正寿氏が制作した。今後は封筒や名刺など、多くの人の目に触れる物品や場所でも積極的に活用するほか、大学生協とも相談し、Tシャツなどの販売も考えているという。

発表会は24日、府中市の「府中の森芸術劇場」

「TAT」のブランドマークをあしらったパーカーを着てダンスを披露する東京農工大の学生たち。府中市の府中の森芸術劇場で

ブランドマーク等制作発表会

制作発表会は、卒業式・修了式終了後に記念イベントとして行われました。新しいブランドマークの紹介があった後、ブランドステートメントの表彰式があり、学長

から4名の入賞者に賞状と賞金が贈られました。また、新マーク入りの衣装で登場した学生たちが、リズムに乗って舞台一杯にダンスとテーマソングを披露し会場を盛り上げました。

▲「UP農工大」の発表会が、2006年3月25日付けの朝日新聞多摩版で紹介されました。

ブランドマークグッズ紹介

ブランドマーク入りのグッズは、今後、東京農工大学生協等で様々に商品企画して行く予定です。入学式には「大学まんじゅう」と「マグカップ」を初めて販売し、大変好評でした。



マーク入りパーカー



マグカップ



ブランドステートメント表彰式

ステージ風景



で開かれた。小畑秀文学長が自ら、マークをあしらったパーカーを着てお披露目した。

大学の姿勢を言葉でイメージさせるステートメントは「地球をまわそう。MORE SENSE! 農工大」。卒業生や在学生、教職員から公募し、約600件の中から選んだ最優秀作品を補作して決めたという。眞木氏が作詞したテーマソング「地球をまわそう」とダンスが学生たちによって披露された。

小畑学長は「国立大学が私立大に一步近づいた。専門分野では知られていない」と話している。

ているものの、一般の人には東京農大と間違われるなど、知名度を上げる必要と語る。また、広報・国際担当の小野藤彦副学長は「学生が気に入るブランドを作ったと思う。学生によるブランドの発信も期待したい」と話している。

3月

卒業おめでとう



2月

府中キャンパスと小金井キャンパスで、学長と大学院生が昼食をとりながら懇談会



1月

アンテナショップ「農工夢市場」を開店、農作物やジャム、ウドンの加工品などを毎週販売



11月

農工祭と科学技術展を同時開催、恒例の野菜市、お笑いライブに多数の来場者



東京農工大学科学技術展

農学府 農学部 生物生産学科



食料生産・環境保全に貢献する 農工大発の水稲長稈新品種 「リーフスター」

大川 泰一郎
助教

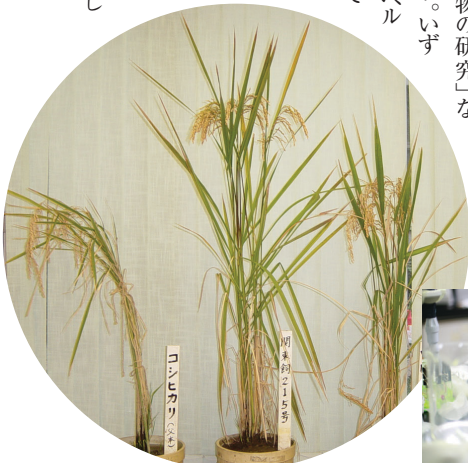
生産機能解析学講座植物生態生理
学教育研究分野では、独立行政法人（農
業・生物系特定産業技術研究機構・作
物研究所）と共同で、稲発酵粗飼料用の
水稲新品種の開発に成功しました。農
林水産省によって「リーフスター」と命名
されたこの新品種は、今春より埼玉県
水田農家などで栽培される予定です。

「リーフスター」の「両親」は、収穫が多
く倒れにくい性質を持つ「中国177号」
と、国内の代表品種の一つである「コシヒカ
リ」。水田で倒れにくい品種のもつ特性
を研究し、それを基に開発した検定方
法を利用して、孫世代のうち、茎が長く
て強いものだけを選んで育成したところ、
茎が長い品種（長稈品種）の倒れやすい
欠点を克服した、太くてきわめて硬い茎
を持つ品種を生み出すことができました。

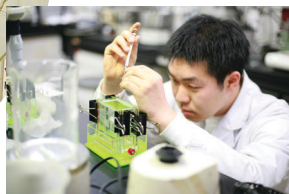
台風が多いわが国の気象条件に合わ
せて、現在、わが国の稲作では丈が短く
倒れにくい品種（短稈品種）が主流とな
っています。では、なぜ「リーフスター」は
長稈品種なのでしょう？ それは茎葉
部分が大きい長稈品種は、高バイオマス
（生物量）生産力を有し、飼料用品種と
して生産することによって食料自給率や
環境保全の問題に大いに貢献すること
ができるからです。わが国では、牛など家
畜飼料の大部分を海外からの輸入に頼
っています。もし、国内で飼料用水稲品
種の生産を増やすことができれば……
飼料自給率だけでなく、食料自給率全
体の向上につながります。同時に「農地
からの飼料の供給」「畜産からの堆肥の
還元」という物質循環が生まれ、環境に
やさしい農業・畜産が実現できます。さ

らに、将来的にバイオマスエネルギーへの活
用も期待されており、これは私たちの今
後の研究課題となっています。

私たちの教育研究分野では、平澤正教
授とともに「収穫量の高い作物の生産機
能に関する研究」、「干ばつや塩分な
どに強い作物の研究」な
どに取り組んでいます。いず
れの研究も、個体群レベル
から遺伝子レベルまで
におよぶ基礎研究の
成果を実際の育種に
応用することを目標
としており、農業、食
料生産、環境保全な
どの分野で社会貢献で
きる研究活動をめざし
ています。



中央が「リーフスター」



実験中の学生

工学府 工学部 物理システム工学科



光の波によって 電子の波を自在に操る技術で 未開拓の分野に挑戦します。

三沢 和彦
助教

「超高速フォトリソグラフィ」——それは、量
子力学という現代物理学の基本原理に
基づいて、未知の領域を開拓する最先端
の研究分野といえるでしょう。私の研究
室では理論的アプローチ（コンピュータシ
ミュレーション）を進める、観音博義教授の研究
室と密接に連携しながら、実験主体
の研究教育活動を展開しています。

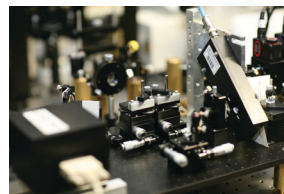
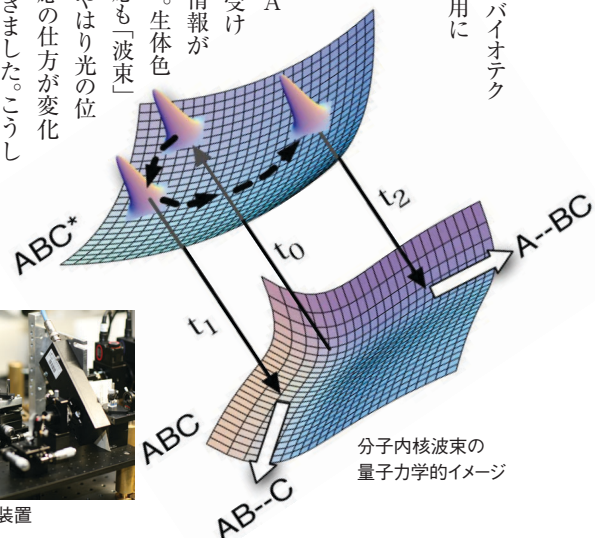
超高速フォトリソグラフィの研究では、カメラの
ストロボフラッシュで例えられる「超短パル
スレーザー」という装置を使って物質を構
成する電子や原子核の運動を止めて観
察します。レーザーの点灯時間の単位は
フェムト秒（1フェムト秒＝10⁻¹⁵秒）です。これは1秒間に地球を7回り半する
光が、ほんの数ミクロンだけ進むという極
限的に短い時間です。

研究室では、この超短パルスレーザーを

駆使して、CD-Rなどの記録材料とし
て使われている有機色素分子（シアニン色
素）を対象とした実験を行い、「粒子」で
ある原子核が、量子波の集まり（波束）
であることを実験で確かめました。さら
にレーザーの波動としての性質（位相）を
変えることで、波束の状態を制御するこ
とも成功。これによりCD-Rや
DVDといった光メディアの記録と読み
出しを、これまでのように光の強さだけ
ではなく、光の位相によっても行える可
能性が明らかになりました。私たちは、
量子波の状態を光によって制御するこの
新技術を「量子波束制御エンジニアリン
グ」と名付けました。

私たちの研究目標は、次世代のコンピ
ュータ（量子コンピュータ）や通信技術（量
子通信）のための新しいデバイス（半導体

部品）の開発ですが、バイオテク
ノロジー分野での応用に
も着目しています。
人がものを見る
ことができるのは、
眼球内の網膜細胞
に存在する、ビタミンA
の色素分子が光を受け
て変化し、脳にその情報が
伝達されるからです。生体色
素分子の光化学反応も「波束」
で説明でき、そしてやはり光の位
相によって、その反応の仕方が変化
することがわかってきました。こうし
た生体反応の原理がわかれば、その自然
がくり出した精緻なメカニズムを人工的
に創り出すことができるようになるかも
しれません。



フェムト秒位相計測装置

分子内核波束の
量子力学的イメージ



組換え型殺虫性タンパク質を餌と混ぜ、絶食させたカイコへ飲ませて殺虫活性を検定する。

試行錯誤して 行動し、 自ら道を 切り開く

深夜、警官に「こんな遅くに何の帰りですか」と問われ、「大学の研究室の帰りです」と答えると、大抵は「こんな遅くまで勉強、大変ですね」と返されます。学生といえは勉強、というのが世間の共通認識のようですが、研究室生活というものはいわゆる勉強のイメージとは違うのだと私は考えます。

私の所属する佐藤研究室では、カイコガを中心題材とし、他の生物との相互作用を分子レベルで理解することを目的としており、私はBtという細菌の作る殺虫性タンパク質の作用機構の解明をテーマに研究をしています。このBtの産生する殺虫性タンパク質は、対象昆虫のみに殺虫作用を示すことから、環境に優しく人畜に無害であることが知られており、微生物農薬として、また作物に組込むなどの手段を用いて、世界中で害虫防除のために使用されています。Btは太古より土壤中に生活する、ヒト以上に地球にはなじみの深い生物で、様々なバリエーションの殺虫性タンパク質を菌株ごとに持ち、それぞれが狭い範囲の対象生物に作用するユニークな性質を持っています。これらの作用機構を解明することが出来れば、更に様々な生物に対して効果を示すタンパク質殺虫剤の開発にもつながり、人口増加に伴う食糧難に対する一つの解決策にもなりうるかと考えています。

佐藤令一研究室「循環生産システム学特別研究」

大学院生物システム応用科学府 生物システム応用科学専攻博士前期課程2年 清田祐介

学生発 こんな授業、こんなゼミ

渡辺敏行教授「光学基礎」

工学部 有機材料化学科 2年生 一色直恵

これからは 光の時代

有機材料化学科では、有機化学、物理化学、分析化学、無機化学などの化学全般の習得に加え力学、電磁気学、光学などの基礎物理学の素養も身につけることができよう。光は化学畑にはなじみの薄かった分野ですが、これからは、有機材料を使ったフォトニクスが大きく発展します。「光学基礎」の講義では、光とはどんなものか概要をつかみ、光をあつかうセンスを習得することができる授業内容となっています。

具体的には、光学基礎では、基礎的な波動光学についての講義(光の特性を考えると、きに必要な電磁波のふるまいを記述するマクスウェルの方程式を学びます。この方程式から、波動方程式を導き、光波がどのような数式で記述できるかを学習します。また、ベクトルと行列による偏光の記述、光のエネルギー、群速度と材料分散、反射と屈折の法則、反射率と透過率、干渉、回折、レンズの焦点距離について学びます)ですが、これらの内容から日常的に使われている光ファイバーやカメラのレンズ、携帯の液晶ディスプレイの原理などを学ぶことができます。講義では、ベクトル解析などの数学の計算もたくさんあるので、しっかりと勉強してのぞまなくてはなりません。また、講義の前

前に前回行った内容の小テストが行なわれるので、このテストにより毎回復習するようになり、理解度も深まります。内容は、教科書に大体沿って進められますが、補助プリントも配布され、また、実際に、光の回折現象など、ガラスとレーザーポインターを学生に回して授業中に自分で実験して、その場ですぐ現象を把握できるので、とても分かりやすく興味が高まる内容となっています。

「新しいものと新しいものを結びつけられ、必ず新しいものが出てくる」と、高分子科学、フォトニクス、エレクトロニクス、細胞生物学を融合した新しい研究領域を開拓し、有機材料や高分子材料を利用して、次世代の表示素子・電子デバイス・通信システム・人工臓器、がん治療まで幅広い研究を進めている渡辺先生の熱心な思いが伝わる授業です。



液晶ディスプレイと偏光板
暗状態

液晶ディスプレイと偏光板
明状態

ラップトップコンピューターと偏光板の組み合わせ。液晶ディスプレイの手前にあるのが、偏光板。液晶ディスプレイに偏光板が使われていることを示している。偏光とは何かを理解させると共に、液晶ディスプレイの原理について簡単に解説している。

大学からのお知らせ

キャンパスツアーのご案内

本学では受験生及び一般の方々に広く大学の理解を深めていただくためにキャンパスツアーを実施しています。父母の皆様も、学生ガイドの案内で武蔵野の緑に恵まれたキャンパス散策を体験してみませんか?参加費は無料です。

- 実施日 府中キャンパス及び小金井キャンパス 隔週水曜日
- 時間 15:30～17:30(夏の学科別ツアー10:00～)
- 参加申込み 事前予約が必要です。メール又は電話でお申込みください。
電話042-367-5895
Eメール:tour@cc.tuat.ac.jp

●見学コースの例

【府中キャンパス】

研究室(毎回1ヶ所)、農学部附属家畜病院、府中図書館、農学部附属ワールドサイエンス教育研究センター(農場・馬場)など

【小金井キャンパス】

研究室(毎回1ヶ所)、工学部附属繊維博物館、小金井図書館、小金井総合会館(工学部食堂)など

<http://www.tuat.ac.jp/social/tour/2006/index.html>

特別講演会を開催ーいのちはみんなつながっているー

執筆活動やテレビの「どうぶつ奇想天外」で幅広く活躍されている動物学者千石正一氏を講師に迎え、生物の多様性と自然環境保全の大切さについて講演会を開催します。ご来場をお待ちしています。

- 日時 6月15日(木) 16時00分～17時00分
- 会場 農学部講堂(府中キャンパス)
- 入場無料 (事前に下記にお申込みください。)
- お申込先 東京農工大学広報・社会貢献チーム

電話042-367-5895 Eメール:mosikomi@cc.tuat.ac.jp

<http://www.tuat.ac.jp/social/moyoshi/2006/index.html>



相談窓口のご案内

本学では、個人の尊厳と学問の自由を損なう差別やいじめのない大学キャンパスの実現を目指し、平成18年4月より、従来の学生相談窓口(メンタルヘルス相談、校医によるカウンセリング、健康相談、本学教員による学生相談、進路・就職相談)に加えて、セクハラ・アカハラ・パワハラに対応するため、医師・心理カウンセラーによる「ハラスメント相談室」を週1回各キャンパスで開設しています。相談室への問合せは、学生支援チーム(電話042-367-5828)で受け付けています。

大学院の名称変更のお知らせ

平成18年4月から、大学院「研究部(研究組織)」及び「教育部(教育組織)」が、「研究院」及び「学府」に名称変更となりました。

大学院:共生科学技術研究院、工学府、農学府、生物システム応用科学府、連合農学研究科、技術経営研究科

公開講座2006

本学の特色を生かした公開講座が揃っています。

公開講座抜粋

講座名	開設日	場所
健康スポーツ講座 「テニス・基礎編」〈全4回〉	5/20～6/10 (毎週土)	小金井キャンパス (テニスコート)
プロに学ぶゴルフ初級講座(前期) 〈全5回〉	6/3～7/1 (毎週土)	府中キャンパス (ゴルフ練習場)
子どもインターネット教室2006	8/5(土)～7(月)	小金井キャンパス (小金井図書館)
子ども樹木博士 〈全5回〉	8月下旬～9月上旬	府中キャンパス
遺伝子操作トレーニングコース	9/13(水)～15(金)	府中キャンパス (遺伝子実験施設)
野生動物の救護と自然復帰	9/23(土)・9/24(日)	府中キャンパス (FSセンター)
リフレッシュ気功・呼吸法	10/28(土)・29(日)	小金井キャンパス (武道場)
実習で学ぶ農業教室 ー体感!実りの秋ー〈全5回〉	10/28～12/2 (毎週土) ※但し11/11を除く	府中キャンパス (FSセンター)

<http://www.tuat.ac.jp/social/openuniv/2006/index.html>

メールマガジン登録受付中

今夏から開始予定の「メールマガジン」で、大学から毎月1回、学内ニュースや様々なお知らせなどをお届けします。只今、「読者登録」を受付中です。パソコン又は携帯電話から登録できますので、皆様のご利用をお待ちしています。

登録方法

パソコンの場合:次のURL(登録サイト)からお申し込みください。

URL <https://mdh.fm/e?kBO03BH4yw>

携帯電話の場合:次のメールアドレスに空メールを送り、返信されたURL(登録サイト)からお申し込みください。

空メール用アドレス tat@am.md

※空メールとは…携帯から本文・タイトルを記入せずにメールを送っていただくことで、自動的に携帯用登録サイトのURLが返信されてくる機能です。

平成18年度学年暦

● 4月1日(土)	● 学年開始 前期開始
● 1日(土)～6日(木)	● 春季休業
● 7日(金)	● 入学式(春季)
● 7日(金)～11日(火)	● 新入生オリエンテーション
● 10日(月)	● 2・3・4年次授業開始
● 11日(火)	● 新入生定期健康診断
● 12日(水)	● 新入生授業開始
● 5月31日(水)	● 創立記念日
● 7月27日(木)・28日(金)	● 補講期間
● 31日(月)～8月4日(金)	● 前学期定期試験
● 8月5日(土)～9月30日(土)	● 夏季休業
● 9月20日(水)	● 修了式(秋季)
● 30日(土)	● 前学期終了
● 10月2日(月)	● 後学期開始、授業開始
● 11日(水)	● 入学式(秋季)
● 11月10日(金)～12日(日)	● 学園祭
● 12月23日(土)～1月6日(土)	● 冬季休業
● 2月8日(水)・9日(金)	● 補講期間
● 13日(火)～19日(月)	● 後学期定期試験
● 3月26日(月)	● 卒業式
● 31日(金)	● 学年終了 後学期終了

住所変更された保護者の方へ

本誌は、平成18年4月現在、大学に登録されている「学生の保証人住所」に郵送しております。住所変更の手続きは、学生本人が所属学部・学府等の担当窓口に向き、届出を行わなければなりません。まだ住所変更を届けていない方は、お子様(保証している学生)に手続きを行うようご指導願います。